

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念を共用空間・玄関等、見やすい場所に表示されたい。	理念の共有 『私たちは、入居者様との共生(共に生きる)をモットーに、ご家族、地域のつながりを大切に、共に学び、共に感じ、共に笑い、温かい心で寄り添い生活していきます。』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念を共用空間・玄関等、見やすい場所に大きく表示し、職員だけでなく、入居者様にも共有できるように取り組んでいく。</li> <li>・職員だけの理念、目標、方向性とならないよう、入居者様、ご家族様、地域の皆様等広く伝え、支え合いの輪を広げられるよう取り組んでいく。</li> <li>・職員それぞれが、理念を理解し、入居者様との生活の中、実現できるよう取り組んでいく。</li> <li>・定期的な会議等の際に理念の確認する。カンファレンス等の際には、理念に沿ったケアが実現できているのかも含め、検討する。</li> <li>・年に一度は理念の再検討を行う。</li> </ul>	12 ヶ月
2		災害時等の際に必要な避難確認表示を各居室に設置されたい。	災害対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時等に、救助者が安否(尊否)確認するため、各部屋の出入口の外側の分かりやすい場所に『残留確認プレート』を設置し、明確にする。</li> <li>・災害時の対応方法の研修・訓練の実施。(訓練内容の工夫)</li> <li>・更なる消防署・町内会・自警団等との連携。</li> <li>・備蓄品リストの作成・管理。</li> </ul>	12 ヶ月
3		食事メニューが利用者に分かるように「献立表」を見やすいところに表示されたい。	食事を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事は生活の中で楽しみのひとつである。一人ひとりの好みや力を活かしながら、買い物や調理過程等入居者と共に行い、作業や工程を共有し楽しみにつなげる。</li> <li>・食事中も会話等を楽しみながら提供し、季節毎の行事に合わせた食事のメニュー等を取り入れ、食材で季節を感じて頂けるように取り組む。</li> <li>・食後も楽しめるよう、献立等を見て会話をし食後も食を楽しめるように取り組んでいく。</li> </ul>	12 ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100840		
法人名	医療法人アスピオス		
事業所名	グループホーム風紋館 (波の館・砂の館・雲の館)		
所在地	鳥取県鳥取市立川町5丁目312—1		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">www.wam.go.jp</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和3年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・鳥取市内では唯一の3ユニットのグループホームである。ユニットそれぞれを一つの家族と考え、近所付き合いをしながら、共に支え合い、楽しく生活しています。  
 ・職員一人ひとりが入居者様と生活を共にしていることを意識し、入居者様との関わりをゆったりともち、落ち着いた環境で寄り添い、コミュニケーションを図り、多くの刺激(五感の活用・行事etc)を取り入れ、共に感じ、生活しています。  
 新型コロナウイルス予防対策により、活動範囲が縮小しているが、できる事を少しずつ積み重ね取り組んでいる。例年は、地域との繋がりを重視し、地域の多くの皆様に入居者様の笑顔を支えて頂いている。特に地域の子供たちの力が大きいものとなっている。(幼稚園、保育園、小学校、中学校 他)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣地に大きなショッピングセンターがあり、施設内に通所介護、居宅介護支援事業所が併設された3ユニットのグループホームです。保養施設を改修され、日々の生活リハビリとしての段差を活用しつつ、各々のユニットで趣向を凝らし利用者は広々とした部屋でゆったりと過ごされています。  
 利用者家族、地域とのつながりを大切に「共に学び、共に感じ、共に笑い合う」理念のもと、温かい心で寄り添いながら共に笑えるよう日々生活されています。本年度はコロナ禍により、外出や交流が難しくなり縮小されているが、出来る事を少しずつ取り組めるよう努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(波の館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所独自の理念を作っている。理念はユニットの見やすい場所に掲示し、常に振り返る機会を作り、意識の向上を図ることで実践に繋がっている。	理念は各ユニットの共用部分に掲示し職員は常に意識し実践されている。現存の理念は職員の意見をもとに新しく作成され、更に利用者へのよりよいサービスに繋がられる様意識を高く持ち実践されている。	理念を共用空間・玄関等、見やすい場所に表示されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より町内会に加入し地域の方との交流の機会があり信頼関係の構築が継続している。日常的に地域との繋がりを意識しながら交流の機会を持っている。本年度は例年実施されている様々な行事が新型コロナウイルス感染症の為中止されている。	町内会に加入し、役員活動・行事参加にて、地域とつながりを持たれている。町内の小学生の登校時見守りを利用者と共に行われていたが、コロナ禍の為、現在は中止されている。小学校3年生の総合授業に講師として招かれ、風紋館について説明し、福祉について学ぶ機会を提供されている。来年度はグーグルミート(オンライン)での交流を実施される予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症により地域の方との様々な交流の機会が減っているが、定期的に広報誌を発行して情報を発信し多くの方に認知症について知って頂き事業所として出来る事を伝え理解が深まる取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症により運営推進会議は書面での開催としている。文書等で報告・意見照会を行った後議事録を作成し報告している。委員の方や家族から意見や助言があり今後のサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回書面会議にて行われている。会議メンバーは地域の役員・民生委員の他、3ユニット家族全員も含まれ、沢山の意見を運営に活かされている。また、知見者からの感染症対策、行事についての意見やアドバイスを受けられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市担当者から電話やメールで情報提供があり協力関係が築かれている。常に連携を図り必要時には相談出来る関係性が築かれている。	市の担当者とは介護保険の最新情報や法改正についての説明会の情報を電話やメール、オンラインで連絡を取り合い、協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の弊害や苦痛を理解し具体的な行為を正しく理解し、常に寄り添い行動制限をしないケアに努めている。定期的に身体的拘束適正化検討委員会を開き何が拘束に当たる行為なのかも確認し合い職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を実施し、職員は身体拘束をしないケアに取り組まれている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開き、拘束について話合う他、身体拘束委員会にて月1回カンファレンスを実施し、職員全員で情報を共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法について理解し日常的に職員間で話し合い、連携しながら虐待防止に努めている。言葉のかけ方やケアの方法について気付いた時は注意し合い自身も振り返り反省するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が2名あり後見人と連携し情報を共有しながら支援している。研修会や勉強会に参加出来てない為職員全員が制度を十分理解出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約の内容を十分説明し、不安や疑問・意向等をお聞きしながら納得を図っている。制度の改正などによる変更も書面や口頭で説明し同意を得るようにしている。他施設入所や入院により解約する際にも十分説明し事業所の対応可能な範囲について説明し納得して入居されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は入居者、家族が意見や要望を言いにくい事を理解しており日々のふれあいや会話の中で思いを汲み取るようにしている。思いを表すことのできない方には家族から聞いたり本人の何気ない一言や行動・表情から察する努力をし、気付いた時は職員間で話し合い改善を行っている。	利用の際、本人の生活歴や好きな事等を把握しケアに活かされている。本人の様子を電話やお便りで報告され、利用者との会話や、コミュニケーションの中で思いを汲み取り、ケアに活かされている。また、意見箱を設置されているが、面会時や電話の際、直接意見をもらわれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から連絡ノートや申し送りを活用し細かな情報や気づきを共有できるようにしている。カンファレンスや日々の業務の中で話し合い、職員から出た意見や提案は管理者に報告し検討して頂いている。	職員と管理者は日々の業務の中で話し合う機会を設け、申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有されている。年1回の全体会議の際、事前に職員全員から、意見や提案を聞き取り、話し合い、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の意見や現状の把握に努め働きやすい職場環境となるよう努めている。必要であれば代表者に要望し、一人ひとりが向上心を持ち協力しながら働く事が出来るよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症により研修等がない為参加出来ていない。可能な範囲で内部研修を行う等で職員一人ひとりのケアの質の向上に繋がるのではないかと考える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の為相互研修等は行われていない。他施設の取り組みや意見を参考に自分たちのケアに活かせるようにしていく必要がある。ユニットごとの意見交換や情報交換も参考になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い情報収集することで、本人の状態や要望・不安なことをよく知り必要なサービスを考えている。事前に見学して頂き少しでも不安を軽減して頂けるよう配慮して対応し安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に施設見学をして頂き、本人の様子や生活歴などを十分聞き取り困っていることや不安なことを解決できるように努めている。。入居後も意見や要望があれば対応していき信頼される関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や事前調査の段階で、本人や家族から要望や不安事・心配事等を聞き取り、必要な支援は何かを検討している。入居されてからも要望に変化があればその都度伺うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は様々な面で一緒に活動したり喜んだり悲しんだり等共に活動し生活する中で信頼関係を築くようにしている。時には助言やアドバイスを頂き感謝の気持ちを伝えるようにしている。日常的に職員を身近な存在として接して下さっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に家族と職員で一緒に支えていく大切さを説明し連携を図っている。家族それぞれの思いを受け止めた上で家族として出来ることは協力して頂き、共に支える信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の為家族との直接面会は制限され認知症状にも変化が出てきている。感染状況により感染予防対策を行った上で予約制での面会や、ガラス越しの環境での面会を実施し、馴染みの関係が途切れないように支援している。私達のケアだけでは成り立たない家族との絆がいかに大切かを痛感する。	家族等の面会は新型コロナウイルス感染症のため、感染状況を確認しながら面会を再開されている。面会は予約制で感染対策の上、時間を決めて実施されている。3月以降、オンライン面会を実施される予定である。また、馴染みの関係が途切れないよう、手紙(年賀状)や電話にて知人との交流を支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の間人間関係を把握し共に支え合って生活できるように心がけている。問題が大きくなりそうな場合は仲介に入ったり、適度に距離感を持つなど状況に応じて関係を調整したり自分の時間をゆっくり過ごす事が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られるなど退居時には、十分な情報提供を すると共に利用終了後もこれまでの関係を大切に、 いつでも相談に乗り必要に応じて相談や支援が出来る ように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の言葉・表情・行動などから 思いや意向を汲み取ったり感じたりして本人の思いが 実現できるように心がけている。本人本位に基づいて 考え、意見を出しながら検討しケアに活かすように努め ている。	入居の際、仕事や生活歴を確認し、ケアプランにて 情報共有し支援されている。意思疎通が困難な利用者 については日々のコミュニケーションや会話の中から 本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や家族から収集した情報と本人からの話を 聞き把握に努めている。入居後も会話の中で思いを 聞き出したり、意向を探るなどで今までの生活が継続 できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方の違いを尊重し、個々の生活 リズム・心理状態を観察し現状を把握するように努め ている。毎日の状況を記録に残し、申し送りや連絡ノ ートを使い職員間で確認し情報共有出来るようにし ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	本人・家族の意向や要望を聞き本人らしく暮らせる 為にカンファレンスで目標や課題・ケア方法を話し 合いケアプランを作成している。定期的に見直し状 態変化などがあれば随時変更し家族にも説明して いる。	本人・家族等の意向を聞き、担当者で話し合い ケアプランを作成されている。毎月のモニタリング にて評価表を作成され5段階で評価し、ケアプラン は3ヶ月に1回総合評価されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容や言動、細かな変化は個別 記録用紙に記入してよくわかるようにし、体調の変 化などを早期に発見できるようにしている。職員は 情報を共有しケアプランの見直しやサービスの提供 に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに 対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な 支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ要望を伺いながら柔軟 に対応し支援するよう取り組んでいる。急な受診な ど家族対応できない場合の受診介助や個別の買い物 ・外出等その時々に合わせて対応できるようにし ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は定期的に幼稚園・小学校と交流したりボランティアの来訪があり地域行事や公民館行事に出来るだけ参加して頂くなど地域と連携して支援しているが、今年は新型コロナウイルス感染症の為行事が中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診される方や往診の方がいる。家族が付き添われる場合や付き添いサービスを利用される方もいる。受診時には身体状況を電話や手紙で報告し適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果の情報は確実に職員間で共有し家族にも報告している。	入居前からのかかりつけ医の受診となっている。家族同行が困難な利用者には、付き添いサービス受診や往診対応、電話受診等、柔軟な対応をし、適切な医療を受けられるよう支援されている。また、受診結果は職員間で共有し、家族に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と日常的に情報交換し入居者の状態を把握してもらい相談や指導を受けている。体調の変化があれば相談し、受診の必要性の判断や助言をもらい主治医との連携を取り適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護連絡票で情報提供をしている。入院中は面会に行ったり家族からの情報や病院関係者と連携しグループホームの生活レベルまでの回復を目標に話し合いを行い退院時の受け入れがスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を説明し状態の変化に応じて事業所としてできることを説明し、主治医・家族と相談しながら今後の方針を決定するようにしている。家族に本人の病状を把握して頂く為にも日頃から生活の様子を報告している。	重度化した場合における対応の指針をもとに、利用者家族に事業者として出来ることを説明しながら、主治医、利用者家族と相談し、今後の方針を決定されている。急変や医療が必要な場合、利用者にとって一番良い環境での最期について方針を共有し、チームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時にはマニュアルに沿って対応できるように繰り返し確認している。救急蘇生法の勉強会を実施したり職員間でどう対応するかなどを話し合い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜の火災や地震・水害等様々な災害を想定した防災訓練を実施している。今年は新型コロナウイルス感染症の為感染予防対策を取りながら職員のみで訓練を実施した。	火災、地震、水害の防災訓練を年2回実施し、1回は夜間想定で行われた。各階ごとに緊急マニュアルを作成し、全職員が共有、地域との協力体制も築かれている。今年度はコロナ禍のため、予防対策を取りながら職員のみで訓練をされた。備蓄はある。	災害時等の際に必要な避難確認表示を各居室に設置されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に言葉遣いや声かけには十分配慮して対応している。馴れ合いにならないように日々ケアを振り返りながら、常に尊敬の念を持って関わるよう心がけている。個人情報の取り扱いの徹底に努めている。	利用者のプライドやプライバシーに配慮した言葉遣いによる声掛けが行われている。また、トイレ等の案内の際、あからさまに言葉に出さず、「御案内をします」という声掛けで誘導され、利用者を尊重する意識も高められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から思いや希望を探ったり、本人に選択して頂けるようなわかりやすく答えやすい言葉かけを心がけ、職員間でも共有し統一するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に出来る限り個別性のある支援をしている。意欲低下の方や思いを表現できない方はこちらから働きかけが必要な時もあるが思いを汲み取りその人らしい生活が実現出来るよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶと時は出来るだけ一緒に準備している。清潔感があり、その人らしさが保てるようさりげなく援助しおしゃれをする機会を設けるようにしている。家族の方にも協力して頂き季節に合わせた服装が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど個々の能力に合わせて手伝って頂いているが、手指消毒等充分行い新型コロナウイルス感染予防に留意している。基本的に職員も同じテーブルで食べていたが、感染予防の為一定距離を置いて食べている。	個々の能力に合わせて食事の準備や片づけを職員と共に行われている。一人ひとりの好みを聞かれ、誕生日には特別メニュー、ケーキ、花東でお祝いし、写真に残されている。以前は職員と利用者は一緒に食事をしてきたが、感染予防のため一定距離を置かれている。	食事メニューが利用者に分かるように「献立表」を見やすいところに表示されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて刻み食やトロミを使用したり、おかずを食べられない方はご飯の上や周りにおかずを並べて提供したり目先を変えて提供するなど工夫している。水分は一日1500ccを目安に個々の好みに合わせて随時提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状況に応じた口腔ケアを行っている。定期的に義歯洗浄や歯ブラシ、コップのチェックを行い清潔維持に努めている。また家族に状態を報告し歯科受診を勧めたり往診歯科診療を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、案内やケアのタイミングを図りそれぞれに合わせた介助に取り組んでいる。表情や行動を観察し、プライドや羞恥心に配慮しながらさりげない声かけを心がけている。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援されている。また、生活のリズムを整え、チェック表を利用し、表情や行動を観察されながら、自立支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い献立の工夫や、運動・乳製品・水分摂取などの確保に努め、なるべく自然排便につながるよう取り組んでいる。主治医と相談し下剤の調整を行い排便の記録や服用の記録を残し排泄パターンの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望や身体状況に合わせて状況に応じて入浴支援を行っている。嫌がられる方には声かけの工夫等で対応し安心感を持って入浴出来るよう支援している。汚染のあった場合や体調の悪い方には清拭・足浴を行い清潔を保っている。	1階、2階は午前中対応、3階は午後対応、日曜日は午前中対応と、一人ひとりの希望や、タイミングに合わせて入浴を楽しまれている。また、入浴拒否のある利用者については清拭、足湯にて対応し、週に2回は入浴出来るよう支援に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体調や希望に合わせて自由に休息して頂いている。午睡の習慣が無い方にも日中の活動量をみて休んで頂くように促し夜間安眠できるようにしている。室温や寝具等にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬効や副作用について理解し、服薬時にはきちんと服用できているか確認している。処方変更時は情報を共有し本人の状態を十分に様子観察し記録し症状の変化に応じて主治医、看護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なこと楽しみごとを把握し、その人らしく過ごせるよう役割や力を発揮し活躍できる場を作っている。一緒に取り組み楽しむことで感謝の気持ちを伝えやりがいを感じ日々の生活が楽しく送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の為外出や行事の中止があり希望に添えていないが、一緒に季節感のある飾りや絵を作成したり室内で出来る事を提供し関わっている。面会制限や外出制限がある中で私達が一人ひとりの日常生活にどれだけ寄り添えるかが大切なスキルと感ずる。	日常的な外出については新型コロナウイルス感染症の為、外出や行事が中止されている。また、面会制限や外出制限はあるが、季節に合わせた絵を作成されたり、室内で出来ることを提供されている。本年度は車で移動できる初詣、つばき観賞、花見など季節に合わせた外出先を考えながら支援されていた。また、春から夏にかけて、グループホーム風紋館の畑で夏野菜を植えられ収穫を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が自己管理出来ない為買い物の希望があれば立て替え払いで対応している。家族と相談して少額のお金を持っている方もあり面会に来られるお孫さんにお小遣いを渡される時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なかなか会えない家族や知人に直接電話をかけて話をされる方や、誕生日に家族からの電話で話をされる方もある。個々が家族とのつながりを大切に出来るよう支援している。携帯電話を持たれている方もあり、家族と自由に話をされ安心して生活されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には花を飾ったり一緒に作った壁画を飾り季節感や生活感が感じられ暖かい雰囲気になるようにしている。匂い、汚れ、音等が不快や混乱にならないよう努めている。感染症予防の為に加湿器を設置し湿度調整、換気にも配慮している。	共用空間には季節の花が飾られ、各階によりBGM、TVなど聞き慣れた音楽などがかけられていた。リビングや廊下には手作りの作品等が飾られ、清潔に暮らしの場が整えられていた。また、加湿空気清浄機が設置され、湿度調節、換気にも工夫されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは気の合った物同士で過ごす場所があり自然に人間関係が出来ている。時には意見が合わなかったりする事もあり様子を見ながら席替えをしている。ゲームをしたり共同作業をする時は皆が自然に集まり和やかな雰囲気できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた馴染みの家具や日用品等を持参して頂き、家族の写真や自作の塗り絵を飾るなど居心地よく過ごせる環境作りに努めている。温度・湿度・直射日光にも気をつけ居室ごとに管理し快適な空間になるように工夫し安心して生活が送れるよう支援している。	使い慣れた馴染みの家具やTV、写真、日用品等を持参してもらわれ、家族、利用者とは話し合いながら、その人らしく過ごせる居室になるよう工夫されている。また、日々の様子を見ながら、安心して生活が送れるよう環境整備に努められていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや表示をわかりやすく設置し個々の状態に合わせて活用している。個々の状況に応じベットやダンスを配置し、不安や混乱の材料にならないようにしている。居室や食堂には不要な物は除去し老人車の使用や歩行の妨げにならないよう環境整備に努めている。		

自己評価および外部評価結果（砂の館）

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット内見やすい場所に理念を掲示し日々の意識付けを行っている。又、カンファレンス等で検討し、共有している。地域を意識し、風紋館として何が出来るかを考えながら取り組んでいる。	理念は各ユニットの共用部分に掲示し職員は常に意識し実践されている。現存の理念は職員の意見をもとに新しく作成され、更に利用者へのよりよいサービスに繋がられる様意識を高く持ち実践されている。	理念を共用空間・玄関等、見やすい場所に表示されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的に会議等へ参加し関係性を保っている。町内行事への参加、事業所行事への参加等交流の機会を作っていたが、コロナ禍において現在活動できていない。	町内会に加入し、役員活動・行事参加にて、地域とつながりを持たれている。町内の小学生の登校時見守りを利用者と共に行われていたが、コロナ禍の為、現在は中止されている。小学校3年生の総合授業に講師として招かれ、風紋館について説明し、福祉について学ぶ機会を提供されている。来年度はグーグルミート(オンライン)での交流を実施される予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において、地域活動ができているが、いつでも認知症サポーター養成講座を開催できるように準備している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、サービス状況等を報告し、様々な意見を頂き、サービス向上に努めている。現在は書面会議で実施。地域の方から様々な情報を頂き、運営に取り入れ、サービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回書面会議にて行われている。会議メンバーは地域の役員・民生委員の他、3ユニット家族全員も含まれ、沢山の意見を運営に活かされている。また、知見者からの感染症対策、行事についての意見やアドバイスを受けられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見交換等良い機会となっている。又、他の市担当者とも電話での相談や窓口での相談等を通じて協力関係ができてる。	市の担当者とは介護保険の最新情報や法改正についての説明会の情報を電話やメール、オンラインで連絡を取り合い、協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を元にチームで意思統一を図り、実践している。玄関施錠については、構造上、リスク管理上実施しているが、開放時間を設ける等工夫しながら、ご家族様ご説明し、理解頂いている。又、入居者様の意識の中に拘束感が生まれないように十分に配慮している。	身体拘束についての研修を実施し、職員は身体拘束をしないケアに取り組まれている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開き、拘束について話合う他、身体拘束委員会にて月1回カンファレンスを実施し、職員全員で情報を共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、今年度は研修参加が難しいため、カンファレンス等で徹底し、声掛けの言葉一つ一つについても注意を払い、入居者様の尊厳が保たれるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他ユニットであるが、入居者様の中にも成年後見人制度を利用している方がおられ、適宜関係者と話し合いを持ち、円滑に支援できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約の内容を十分に理解して頂けるように説明し、介護保険法改定の際にも改めて説明させて頂いている。又、いつでも疑問点等があれば、お答えできる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、運営推進会議開催時、意見を求める仕組みがあり、日々のかかわりの中で話しやすい関係性が作れるように取り組んでいる。要望や意見を反映できるよう、事業所、チームで取り組んでいる。	利用の際、本人の生活歴や好きな事等を把握しケアに活かされている。本人の様子を電話やお便りで報告され、利用者との会話や、コミュニケーションの中で思いを汲み取り、ケアに活かされている。また、意見箱を設置されているが、面会時や電話の際、直接意見をもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ユニット責任者で適宜情報交換し、チームの改善に取り組んでいる。また、管理者は、適宜法人と話し合いの場をもっている。	職員と管理者は日々の業務の中で話し合う機会を設け、申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有されている。年1回の全体会議の際、事前に職員全員から、意見や提案を聞き取り、話し合い、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人と連携し、職場環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や希望等を考慮し、外部研修への参加を促し、個々の能力向上、自己啓発に努めている。日々のケアの中、OJTを活用し、経験者が助言等を行い質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会主催のGH相互研修や11事業所で管理者ネットワークの会等で仕組みが合ったが現在コロナ禍で停止中であるが、管理者同士では適宜情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前、自宅または病院、事業所等に伺い、事前に、心身状態や希望、生活暦等を聴取し、入居に向け情報共有し受け入れ態勢を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時、契約前の事前調査時や、入居前に施設にお越し頂き、説明をすると共に、不安や疑問点等出来る限り取り除けるように取り組み、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの段階では、満床ではあることが多いため、他サービスを含め説明等を行い、本人様の最善な環境を共に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念にも入居者様との共生(共に生きる)を上げ、常に同じ目線にたって、日常生活を送るもの同士支えながら生活できるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナ禍で面会ができない状態であるが、適宜電話で生活状況を伝え、本人様の状況を理解して頂き、これまでの関係が途絶えることのない様、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、外出や外泊、面会の制限があり、関係性の継続のための行動がとりにく状況であるが、今できることを考えながら、支援している。知人への電話、手紙等を活用し関係性の維持に努めている。	家族等の面会は新型コロナウイルス感染症のため、感染状況を確認しながら面会を再開されている。面会は予約制で感染対策の上、時間を決めて実施されている。3月以降、オンライン面会を実施される予定である。また、馴染みの関係が途切れないよう、手紙(年賀状)や電話にて知人との交流を支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活をする中、入居者様同士はもちろん、職員も間に入り、共に助け合って生活をしている。入居者様同士の関係性を把握し職員が調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も他施設に面会に行き様子を伺ったり、今後も相談していただけるよう説明をし、フォローできる体制ができるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族より、生活歴を伺う。日常会話から情報を得たりし、思いを汲み取り、カンファレンス等で情報共有、検討をしている。	入居の際、仕事や生活歴を確認し、ケアプランにて情報共有し支援されている。意思疎通が困難な利用者については日々のコミュニケーションや会話の中から本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や経過シートを活用し、情報収集し、本人様、ご家族様からの日常会話から情報を集めている。入居者様のバックグラウンドを知ることで、本人様の理解に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の申し送り、記録、連絡ノート等を活用し把握に努めている。何気ない行動、気づきも情報共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活での関わりの中、本人様の意向、要望を汲み取り、面会等を活用して要望等を聴取し、ケアカンファレンス等で一人一人に対し細かく話し合い、検討内容をもとに再アセスメント、計画を作成している。	本人・家族等の意向を聞き、担当で話し合いケアプランを作成されている。毎月のモニタリングにて評価表を作成され5段階で評価し、ケアプランは3ヶ月に1回総合評価されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録(様子、言葉、エピソード等)等を活用し、気づき等申し送り、記録、連絡ノート等を活用し、情報共有するように努めている。実践状況等毎月モニタリング、見直し状況把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、現在は、事業所内での活動に留まり、柔軟な対応ができていないが、これまでの関わりで築いた関係性を途切れさせないよう、適宜情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、現在地域源の活用があまりできていない。できる範囲で地域に出かけているように努めている。これを機会に新たにどのような社会資源が活用できるか考えるきっかけとできるよう、取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族様と今までの通いなれた、かかりつけ医受診して頂く。入居者様の状態等については、お手紙やお電話で報告をしたり、ご家族様と相談し、必要であれば、直接伺い、情報交換をしたりし、連携を図っています。往診や電話受診等柔軟に対応している。	入居前からのかかりつけ医の受診となっている。家族同行が困難な利用者には、付き添いサービス受診や往診対応、電話受診等、柔軟な対応をし、適切な医療が受けられるよう支援されている。また、受診結果は職員間で共有し、家族に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活状況を把握し、気づきや異変等、早期発見し、看護職員と相談、受診の必要性を判断し、主治医と連携を図り、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供等密に行い、又、入院中面会等の際に情報共有を図ったり、退院時カンファレンス等に参加し、情報交換等を行い、再入居に向け、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、重度化した場合等の指針を説明し、ご家族様と共有するようにしている。入居の際には、イメージしにくいこともあるので、入居者様の状態に合わせ、その時点でベストな環境をご家族様と相談しながら、方向性について考えている。	重度化した場合における対応の指針をもとに、利用者家族に事業者として出来ることを説明しながら、主治医、利用者家族と相談し、今後の方針を決定されている。急変や医療が必要な場合、利用者にとって一番良い環境での最期について方針を共有し、チームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時等に備え、マニュアルを確認したり、研修等を行い、手順の確認や看護職員との連携等確認を行っている。ハード面ではAEDを設置。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回総合訓練を実施し、手順を確認すると共に、日頃より危機意識を持って生活するように取り組んでいる。様々な災害に対して準備し、内容についても適宜検討を重ね、万が一に備えている。	火災、地震、水害の防災訓練を年2回実施し、1回は夜間想定で行われた。各階ごとに緊急マニュアルを作成し、全職員が共有、地域との協力体制も築かれている。今年度はコロナ禍のため、予防対策を取りながら職員のみで訓練をされた。備蓄はある。	災害時等の際に必要な避難確認表示を各居室に設置されたい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々ケア(声掛け等配慮)の中、プライドやプライバシーに配慮し行うようにしている。個人情報等十分に配慮し取り扱っている。	利用者のプライドやプライバシーに配慮した言葉遣いによる声掛けが行われている。また、トイレ等の案内の際、あからさまに言葉に出さず、「御案内をします」という声掛けで誘導され、利用者を尊重する意識も高められている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の希望を表現できない方も多くなっている。生活の中、何気ないしぐさや言葉を見逃さないように留意し、しっかりとコミュニケーションを図り、思いを汲み取るよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自身表現できない方も多く、職員の都合になっている場面も見られる。今一度振り返り、カンファレンス等で意思統一を図り、個々の希望を汲み取り、チームケアを実践していくことが大切だと感じる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様にもご協力いただき、季節ごと衣類の入れ替えをお願いし、本人様らしい衣類を確保し、個々によって対応している。家族対応が困難な方もあり、職員対応している方もある。今後個別で買い物等できればと思う。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中、食べたい物や旬の物等を聞いたり食事の時間が楽しい時間となるように取り組んでいる。又、個々の能力に合わせて、出来る範囲で手伝って頂く様にしている。	個々の能力に合わせて食事の準備や片づけを職員と共に行われている。一人ひとりの好みを聞かれ、誕生日には特別メニュー、ケーキ、花束でお祝いし、写真に残されている。以前は職員と利用者は一緒に食事をしていたが、感染予防のため一定距離を置かれている。	食事メニューが利用者に分かるように「献立表」を見やすいところに表示されたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量、形態の把握等に努め、病歴等によって調整等を行うようにしている。水分摂取は、すすまない方もあり、飲み物や時間帯を工夫し量の確保出来るように努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、口腔内の清潔の重要性を理解し、毎食後、口腔ケアを促し、支援している。自立動作に配慮し、寄り添いながら支援している。実施時には口腔内に異変等がないか留意している。舌ブラシの活用、夜間義歯消毒を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間をみて案内、行動等の観察に努め、できる限りトイレでの排泄が行えるよう、支援している。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援されている。また、生活のリズムを整え、チェック表を利用し、表情や行動を観察されながら、自立支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように、水分量、活動量の確保、また食事の内容の工夫等を行い、便秘予防に努めている。主治医と連携を図り、個々に合った対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いする事はなく入浴が楽しい時間となるようにしっかりとコミュニケーションを図りながら、支援している。又、発汗、排泄面等考慮し、個々に合わせて対応している。	1階、2階は午前中対応、3階は午後対応、日曜日は午前中対応と、一人ひとりの希望や、タイミングに合わせて入浴を楽しまれている。また、入浴拒否のある利用者については清拭、足湯にて対応し、週に2回は入浴出来るよう支援に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースを把握し、活動量を確保し夜間安眠できるよう支援している。個々の状態に合わせて無理のないように支援している。自分のペースで入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状態は、個別のファイルに保管し、いつでも確認が取れるようにし、把握に努めている。又、症状の変化等を見逃さないように留意し、看護職員とも連携し主治医に情報提供し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に生活暦等を把握すると共に、生活の中、本人様の経験等把握し、生活に多くのものを取り入れる様にしている。出来る事、得意分野を把握し、自らが行えるように支援している。季節の行事を大切に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、外出について躊躇してしまう場面もある。コロナ警報の状況、天候を見て、ドライブ出掛け、(極力車から降りない)外出先も人が少ない場所等にして、現状できることを取り入れながら支援している。	日常的な外出については新型コロナウイルス感染症の為、外出や行事が中止されている。また、面会制限や外出制限はあるが、季節に合わせた絵を作成されたり、室内で出来ることを提供されている。本年度は車で移動できる初詣、つばき観賞、花見など季節に合わせた外出先を考えながら支援されていた。また、春から夏にかけて、グループホーム風紋館の畑で夏野菜を植えられ収穫を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭管理はご家族様にお願いし、状態によっては、本人様個人で管理していただいている方もいる。買い物等の際に個人の物の購入は、立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望等によって、行っている。又、季節を感じる意味でも年始の挨拶となる、年賀状は皆様に作成して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節感を感じられるように花や季節の行事の物を置いたりし、明るい雰囲気作りを心がけている。 心地よい空間となるよう、入居者様と共に環境整備に取り組んでいる。	共用空間には季節の花が飾られ、各階によりBGM、TVなど聞き慣れた音楽などがかけられていた。リビングや廊下には手作りの作品等が飾られ、清潔に暮らしの場が整えられていた。また、加湿空気清浄機が設置され、湿度調節、換気にも工夫されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くの入居者様は、共有スペースで過ごす時間が長くなっている。ストレスなく過ごせるようにの席の配置等配慮し、入りやすく、居心地のよい空間となるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人様が安心して過ごせるよう、ご家族様にご協力頂き、使い慣れたものを持ってきて頂き、自宅の自室を再現して頂きたいと伝えている。個々の状態に合わせて、動線に配慮し混乱等の要因とならない様に配慮している。	使い慣れた馴染みの家具やTV、写真、日用品等を持参してもらわれ、家族、利用者と話し合いながら、その人らしく過ごせる居室になるよう工夫されている。また、日々の様子を見ながら、安心して生活が送れるよう環境整備に努められていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の場所を表記したり、トイレ、浴室、廊下には多くの手すりを設置している。居室内も含め、個々の動線を考慮し、安全に生活できるように配慮している。自発的な行動を大切にし職員は共に生活をしている。		

自己評価および外部評価結果（雲の館）

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの入り口と食堂等の目の付く場所に風紋館の理念を掲示しており、日頃より職員は意識し、常にスタッフ間で共有・実施出来る様に意識を持って、介護・支援に取り組んでいる。又年度末には風紋館の現状の把握しケアの振り返りを行ない実践につなげている。	理念は各ユニットの共用部分に掲示し職員は常に意識し実践されている。現存の理念は職員の意見をもとに新しく作成され、更に利用者へのよりよいサービスに繋げられる様意識を高く持ち実践されている。	理念を共用空間・玄関等、見やすい場所に表示されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、例年であれば行事・訓練等に参加し、また風紋館の行事にも地域の方をお招きして、風紋館を知って頂く様に交流を深めていたが、コロナウイルス感染予防の観点より参加できず、生活域への入館禁止・交流的な行事は中止している。	町内会に加入し、役員活動・行事参加にて、地域とつながりを持たれている。町内の小学生の登校時見守りを利用者と共に行われていたが、コロナ禍の為、現在は中止されている。小学校3年生の総合授業に講師として招かれ、風紋館について説明し、福祉について学ぶ機会を提供されている。来年度はグーグルミート(オンライン)での交流を実施される予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年管理者が小学校で風紋館についての質問に答える授業の後児童と見学・交流を行っていたが、コロナウイルス感染予防の為交流は出来ないが、感染予防を行い小学校訪問し質問に答える事になっている。オレンジガーデニングプロジェクトに参加し、入居者様と共にキバナコスモスの種蒔きから始め育てて咲かせた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為書面での対応を行い、色んなご意見・質問・ご指導を頂き、実施出来る事は行き、ご報告をしている。コロナウイルス感染予防対応に対して労いのお言葉を頂き励みになっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回書面会議にて行われている。会議メンバーは地域の役員・民生委員の他、3ユニット家族全員も含まれ、沢山の意見を運営に活かされている。また、知見者からの感染症対策、行事についての意見やアドバイスを受けられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染予防の為、今年は直接のやり取りが行えず、電話等の対応になっている。	市の担当者とは介護保険の最新情報や法改正についての説明会の情報を電話やメール、オンラインで連絡を取り合い、協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、出て直ぐ階段で極めて危険な状態であり、リスクを考え施錠対応を行っているが、施錠を感じさせないケアを行い、入居者様に拘束感が生まれぬ様に配慮し支援を行っている。臥床時拘束せずセンサー対応・見守り強化対応を行っている。	身体拘束についての研修を実施し、職員は身体拘束をしないケアに取り組まれている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開き、拘束について話合う他、身体拘束委員会にて月1回カンファレンスを実施し、職員全員で情報を共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度身体拘束検討委員会を行い情報をユニット会議等に伝え、確認を含め話し合いを行い、意識して支援を行っている。スタッフ間で情報の共有を行い虐待防止に努めている。テレビ等で個々で学んだ事を職場で活かすように様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護と成年後見制度を利用されている方が1名おられ、スタッフ間の情報の共有・制度の理解を行った上で支援している。後見人と定期的に連携を取り情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書・重要事項の説明を十分行い、不安・疑問を伺った上で承諾を頂いている、面会時・連絡事時に報告を行い状況に応じた対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等コロナウイルス感染予防の為書面での対応になっている。貴重なご意見・お礼など頂いている。各階の入り口に意見箱を設置しているが感染予防の為、入館禁止対応を行っているので、ご家族と電話にてお願い事・様子報告を行う時に、要望等伺い対応している。	利用の際、本人の生活歴や好きな事等を把握しケアに活かされている。本人の様子を電話やお便りで報告され、利用者との会話や、コミュニケーションの中で思いを汲み取り、ケアに活かされている。また、意見箱を設置されているが、面会時や電話の際、直接意見をもらわれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて良い提案あれば、早々に反映させ改善部分があれば正す様に話し合っている。スタッフ間で話し合い事、お願い事は管理者に報告・相談している。管理者は法人と連携を図り改善に向けて取り組んでいる。	職員と管理者は日々の業務の中で話し合う機会を設け、申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有されている。年1回の全体会議の際、事前に職員全員から、意見や提案を聞き取り、話し合い、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士が向上心を持って、勤務できる職場になるように、日頃よりお願い事を報告している。希望休暇を確保しているため、希望休みが取りやすいと言う声を聞く。急な休みも有給対応になる様に支援し、今年から1時間単位での有給対応が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は希望者に参加して頂き報告書にてJ回覧情報を共有していたが、コロナウイルス感染予防の為研修には参加せず日々の業務で学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染予防の為、相互研修等の研修が中止となり実施出来ない。 同業者では無いが、コロナウイルス感染対策を行い、看護専門学校より実習生の受け入れがあり、入居者様は喜ばれ多くの対話が生まれ、職員も伝える事で仕事の振り返りが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査にて本人様と面談・対話にて生活歴・エピソード等伺い不安な事・困っている事をキャッチし安心出来る様に対応している。 家族様には経過シートにて情報を頂き早く信頼関係が築けるような支援になる様に反映している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナウイルス感染予防の為入館禁止の日が多く、電話での様子報告時に、要望・不安に思っている事伺い、支援・対応をする事で、より良い関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時本人様ご家族意向や要望を伺い、要望に沿えるように、支援方法を考え、ケアプランの作成を行っている。生活を共にする中で教え合ったり、励まし合ったりしながら信頼関係が築けるように努めている。どうしても必要としている支援でシルバーデイのサービスを利用されている入居者様がおられる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と同じ目線に立ち、介助だけでなく生活を共にする事で、信頼関係を築いている。洗濯たたみ・新聞たたみ等手伝って頂き、家族の様な信頼関係を築き、いつでも本心を聴ける様な対応を心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡などで様子報告し、入居者様の日頃の様子を共有、しご家族様と協力して支援していける様にしている。入居者様が主治医以外の専門医の受診が必要ならば、対応して頂き少しでも体調が良好になる様に、共に支援していける様な関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為入館禁止時は面会が出来ず、入館緩和時は予約・時間・場所の指定にて面会して頂いている。ご本人様要望にて電話対応・家族様からの要望にてガラス越しでの面会は随時対応している。	家族等の面会は新型コロナウイルス感染症のため、感染状況を確認しながら面会を再開されている。面会は予約制で感染対策の上、時間を決めて実施されている。3月以降、オンライン面会を実施される予定である。また、馴染みの関係が途切れないよう、手紙(年賀状)や電話にて知人との交流を支援されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブル方との対話・同じ手伝いを行う事で関わり、体操を一緒に行う事で楽しく支え合う場面がある。入居者様同士でのトラブルが起きない様に、スタッフが間に入り対応している。身体レベル・性格を把握し関わりに配慮を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の病院へお見舞いや他施設への面会に伺ったり、ご家族様との交流関係も大切に行事へ招待していたが、コロナウイルス感染防止の為出来ない。退去後リハビリを経て馴染みの関係が保たれた風紋館に入居され、「ただいま」と言われ、直ぐ楽しく対話をされていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに合わせた支援を行ない、ご本人様の要望を取り入れ支援している。日常生活の会話の中から思いを伺い、支援・対応をする様に努めている。	入居の際、仕事や生活歴を確認し、ケアプランにて情報共有し支援されている。意思疎通が困難な利用者については日々のコミュニケーションや会話の中から本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様からお話を伺う、又日常の関わりの中で情報収集に努めている。入居前に経過シートを記入して頂き、以前の生活環境に近づく様な支援になる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりに合わせた支援・介助を行う様に、その方の体調管理・ペースの把握に努めている。統一した支援が行えるように、ケース記録・連絡ノートにて情報の共有を行い、職員が統一したケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様からの要望を伺い、日常の支援・介助提供時の気付きを共有し、スタッフ会議にてカンファレンス実施し、日々の暮らしをより良くして頂く為に、現状に合ったケアを提案し、家族様の了解の元介護計画書を作成、実施している。	本人・家族等の意向を聞き、担当で話し合いケアプランを作成されている。毎月のモニタリングにて評価表を作成され5段階で評価し、ケアプランは3ヶ月に1回総合評価されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活の中で出る言葉を、個々のケース記録に記入、申し送りにてスタッフ間で情報共有を行っている。重要事項は連絡ノートに記載し、読んだらサインにて確認している。又支援内容について振り返りを毎月行い、ケアプランの見直しを3か月毎に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様に合わせた様々な支援に対応出来るように、他職種との連携に努めている。主治医や専門機関と連携を取り、ご指導を仰ぎながら家族様と共に対応を行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為に、外部との交流外出は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し、継続し家族様に付き添って頂き受診をお願いしている。又受診が困難な方4名の、往診対応を行っている。日頃の様子・相談事(血圧・体温・脈拍・食事・水分量)などを報告し、主治医との連携を図っている。緊急時も相談指示を頂いている。	入居前からのかかりつけ医の受診となっている。家族同行が困難な利用者には、付き添いサービス受診や往診対応、電話受診等、柔軟な対応をし、適切な医療を受けられるよう支援されている。また、受診結果は職員間で共有し、家族に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介助中に気づき・状態の変化があれば、2階看護師に報告・相談を行い、指導・支持を貰い必要な時は処置対応を施行される。2週間毎に協力看護師(鳥取産院)に気づき・情報を伝え、相談も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報交換を迅速に行い、必要物品の準備等対応している。介護連絡表にて情報の提供し、相談員を通して情報共有を行っている。退院許可時には事前調査を行い、その後の対応について管理者・看護師に報告・相談し決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族様へ説明・同意を頂いて、状態により情報の共有を行い協力し、主治医・ご家族様と共に方針について話し合いを行い方針を決めた上で支援を行なっている。重度の状態になられても、ご家族となかなか状態の共有出来ずらい家族様もおられるが、今後のお話をして特養への申し込みをされた。	重度化した場合における対応の指針をもとに、利用者家族に事業者として出来ることを説明しながら、主治医、利用者家族と相談し、今後の方針を決定されている。急変や医療が必要な場合、利用者にとって一番良い環境での最期について方針を共有し、チームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、各自で内容を把握し対応出来る様にしている。個別の緊急時必要事項を書面にして、急変・事故発生時の、急な対応が必要時にそなえている。AEDの設置・救命処置の手引きが配布され、各自で確認を行っている。今年はコロナウイルス感染予防の為、講師来館での研修は出来て無い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内で消防署・自警団協力のもと、防災訓練を全職員にて行い、行動の確認を行い操作方法を身に付けている。今年はコロナウイルス感染予防の為職員だけで防災訓練を行い行動の確認を行った。	火災、地震、水害の防災訓練を年2回実施し、1回は夜間想定で行われた。各階ごとに緊急マニュアルを作成し、全職員が共有、地域との協力体制も築かれている。今年度はコロナ禍のため、予防対策を取りながら職員のみで訓練をされた。備蓄はある。	災害時等の際に必要な避難確認表示を各居室に設置されたい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し・誇りやプライバシーを損ねない声掛け対応を、スタッフ全員で共有し実施している。自我の強い方の訴えは、様子を見ながら慎重な対応を行っている。	利用者のプライドやプライバシーに配慮した言葉遣いによる声掛けが行われている。また、トイレ等の案内の際、あからさまに言葉に出さず、「御案内をします」という声掛けで誘導され、利用者を尊重する意識も高められている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	顔の表情や声掛けにてご本人の思いを読み取り行動出来る様に働きかけている。関わりの中で自己決定や表現につながる様な声掛けを・支援を行ない、職員が決めるのではなく入居者本意で行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの様子の合わせて、食事時間・起床時間は状況を観ての対応している。又状況を見て本人様のペースに合わせて生活出来る様に支援を行っている。一日の流れであっても、日により参加したく無い日は無理をせず、思いのままの行動・活動して頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望でご家族の協力にて、なじみの美容室へコロナウイルス感染予防をしながらでられた。起床時・離床時の整容に配慮している。手や顔にクリームを提供すると表情良く上手にご自分で塗られている。衣類が整っていない方は、優しく声掛けにて直して頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日魚料理・肉料理の提供を行っている。季節毎の行事に合わせた食事のメニューや、食材で季節を感じて頂く様に(春の七草)確認にて対話があったり、誕生日には赤飯等特別メニュー・ケーキ・花束でお祝いし写真に残している。	個々の能力に合わせて食事の準備や片づけを職員と共にされている。一人ひとりの好みを聞かれ、誕生日には特別メニュー、ケーキ、花束でお祝いし、写真に残されている。以前は職員と利用者は一緒に食事をしていたが、感染予防のため一定距離を置かれている。	食事メニューが利用者に分かるように「献立表」を見やすいところに表示されたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気・状態に応じた食事提供・栄養のバランス・嗜好に合わせた水分の提供を行い、食事・必要な水分の摂取量の、提供と把握に努めている。水分の制限がある方は、調整にも気を付けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせ食後の、口腔ケアを行って頂き、残渣が残る方は介助支援を行ない、義歯の方は預かり、口腔内はブラッシングとうがいをして頂いている。座って頂く方が多く、介助必要な方が多くなっている。口腔内の状態の把握は共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の様子をしっかりと見守り、変化時はお声掛けにてトイレ誘導を行い、失禁を減らしてトイレでの排泄を支援している。排泄状況を把握し、個人に合わせた負担の少ない支援・介助を行っている。一日の排尿間隔チェック表を記載し、Drへ報告をしている方もおられる。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援されている。また、生活のリズムを整え、チェック表を利用し、表情や行動を観察されながら、自立支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事でも食物繊維の物を提供したり、一日1回おやつ時に、カスピ海ヨーグルトを提供している。排便が3日にて青汁＋牛乳割り200ccを提供対応している。排泄状況を把握し個人に合わせた、負担の少ない支援・介助を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせた、声掛けにて入浴して頂き、否定的な時は、時間を置いて対応している。入浴の訴え時や排泄での汚染時など、清潔維持等が必要な時など、その時々状況に応じて柔軟な対応を行う様になっている。3階は午後入浴対応になるが、日曜日は午前中の入浴対応を行っている。	1階、2階は午前中対応、3階は午後対応、日曜日は午前中対応と、一人ひとりの希望や、タイミングに合わせて入浴を楽しまれている。また、入浴拒否のある利用者については清拭、足湯にて対応し、週に2回は入浴出来るよう支援に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごして頂く事で、夜間の良眠へつなげている。夜間は各自に合わせた消灯時間にて対応し、本人様のペースに合わせた就寝・起床などの支援を行っている。午前中に傾眠があれば声掛け休んで頂き、昼食後は昼寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書を保管・適宜確認把握を行い、症状により副作用ではないか等確認を行っている。処方箋や主治医からの助言は、職員間で共有し日々の様子変化がある時は、看護師・主治医に報告し、支持を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調にて洗濯たたみ・新聞たたみ等、日常の中で役割を持って頂ける様に声掛け対応をしている。毎日ラジオ体操・イス体操等に参加して頂いている。パズル・読書をされる方・対話をする事で楽しんで頂く事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染の為外出が行えないが、季節に合わせた行事を計画し、楽しんで頂く様に支援を行っている。受診時に家族様の顔を見て外気に触れお話をされている。	日常的な外出については新型コロナウイルス感染症の為、外出や行事が中止されている。また、面会制限や外出制限はあるが、季節に合わせた絵を作成されたり、室内で出来ることを提供されている。本年度は車で移動できる初詣、つばき観賞、花見など季節に合わせた外出先を考えながら支援されていた。また、春から夏にかけて、グループホーム風紋館の畑で夏野菜を植えられ収穫を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は所持をせず、家族様に管理をお願いしている。必要な物は電話にてお願いしたり、立て替え購入にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されている方がおられ、充電・電話時の対応を行っている。希望時・不穩時には電話をかけてお話をしている。毎年賀状でのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑の植物を置き・季節の花も飾る時もあり、聞きなれた音楽を流し口ずさんで頂くような環境にしている。季節に合わせた壁画作成・リースにて食堂・廊下を飾り、季節感の中で過ごす頂く様に支援を行っている。又飾りを飾る時外す時など手伝いをお願いしている。	共用空間には季節の花が飾られ、各階によりBGM、TVなど聞き慣れた音楽などがかけられていた。リビングや廊下には手作りの作品等が飾られ、清潔に暮らしの場が整えられていた。また、加湿空気清浄機が設置され、湿度調節、換気にも工夫されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間に居室で休まれたり、畳に上がり会話しながら、名前を確認洗い洗濯たみを手伝って頂く方・入居者様の居室訪問にてテレビを見ながら対話をされ、自由に過ごして頂いている。食堂ではトラブル等にならない様に、席の配置を考え席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家より馴染みのある物を持参して頂き、安心して過ごして頂ける様な、居室作りを行っていることで、心地良く過ごされている様子がうかがえる。身体のレベルに合わせて、居室を3分の1にして対応し、ジョイントマットを敷いて対応している方もある。	使い慣れた馴染みの家具やTV、写真、日用品等を持参してもらわれ、家族、利用者と話し合いながら、その人らしく過ごせる居室になるよう工夫されている。また、日々の様子を見ながら、安心して生活が送れるよう環境整備に努められていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レベルに合わせた家具の配置、居室での動線の確保と、居心地の良い居室になる様に考慮している。又食堂では分かりやすい様に、席に名前を貼っている。トイレ・居室が分からない方は大きく記名にて対応している。入居者様の出来る事出来ない事見極め、出来ない事を手伝える様に支援している。		